

## SCD 寒天培地 (混釈用寒天培地)

マイクロバイオ株式会社

### 1. 特徴

この SCD 寒天培地は、検体中の好気的条件下で発育可能な中温性の細菌を迅速に発育させ定量的に測定する事ができ、また混釈法に比べ操作時における培地からの熱ストレス（約 50℃）による死滅が無いのでさらに試験精度が高くなります。

### 2. 概要

SCD 寒天培地（ソイビーン・カゼイン・ダイジェスト寒天培地）は、主に医薬品・化粧品の微生物試験に用いられます。無菌試験や限度試験（総細菌数）の把握及び大腸菌群、サルモネラ、黄色ブドウ球菌、緑膿菌等を増殖する目的に使用する、栄養に富む培地です。

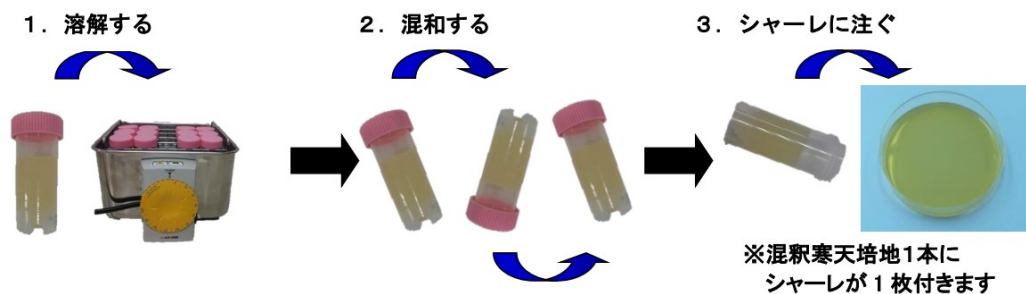
### 3. 使用方法

3-1 95℃程度で30分ほど湯せんします。

3-2 湯せん後、45℃～50℃の培地溶液に試料を添加して混和し、これをシャーレに静かに流し入れます。

（シャーレに試料を入れておいて、湯せんした培地溶液を流し込んでも、混釈できます。）

※ 使用法（お徳用シャーレ付ACM）



※ お徳用 ACM のひと箱に湯せん用フローターがサービスで添付されています。



### 4. 培地の保管方法

培地は、常温の暗所で保管して下さい。

### 5. 試験成績書

以下のページは、培地性能の参考資料です。各ロットには、このような試験成績書が添付されます。

# 試験成績書

製品番号 ACM026

製品名 SCD寒天培地  
(混釈寒天培地)

製造番号 B100C

使用期限 2022年5月7日



マイクロバイオ株式会社

品質管理部

## <性状試験>

試験項目	規格	判定
外観	淡黄色な培地 異物を認めない	適合
pH	7.3±0.2	適合
無菌試験	菌の発育を認めない (25±2°C 7日間)	適合

## <培養試験>

試験菌株	接種菌数	培養温度	培養時間	判定
<i>Pseudomonas aeruginosa</i> NBRC 13275	100CFU 以下	33°C	36時間	接種菌の出現集落数は、標準化された菌液の計測値の1/2～2倍以内。有効性が確認された培地パッチで以前に得られた発育と同等の発育を認める。
<i>Staphylococcus aureus</i> NBRC 13276	100CFU 以下	33°C	36時間	
<i>Bacillus subtilis</i> NBRC 3134	100CFU 以下	33°C	36時間	
<i>Candida albicans</i> NBRC 1594	100CFU 以下	33°C	36時間	
<i>Aspergillus brasiliensis</i> NBRC 9455	100CFU 以下	33°C	72時間	

## <合否判定>

総合判定日	2022年 2月17日	総合判定	適合
-------	-------------	------	----

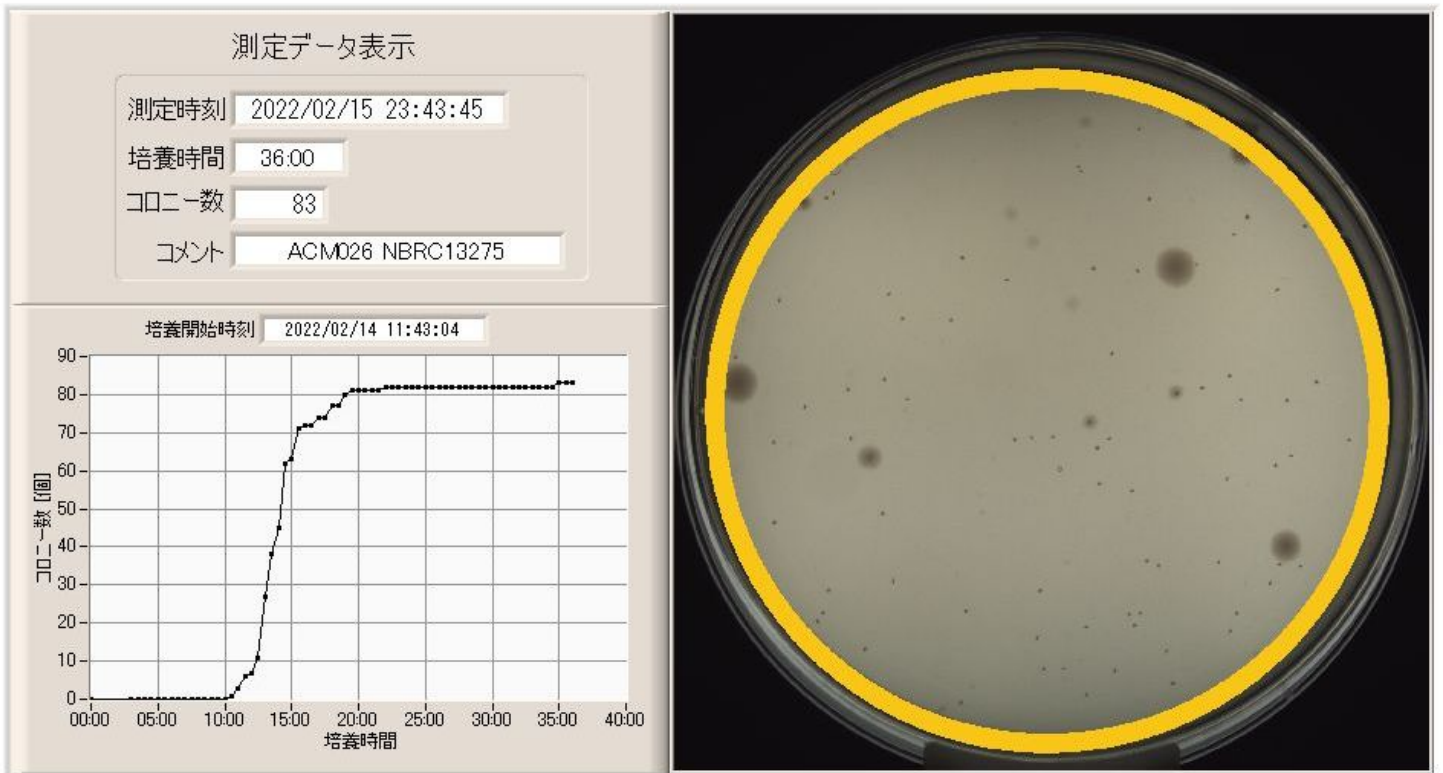


図1 . 標準菌株 *Pseudomonas aeruginosa* NBRC 13275 の発育画像

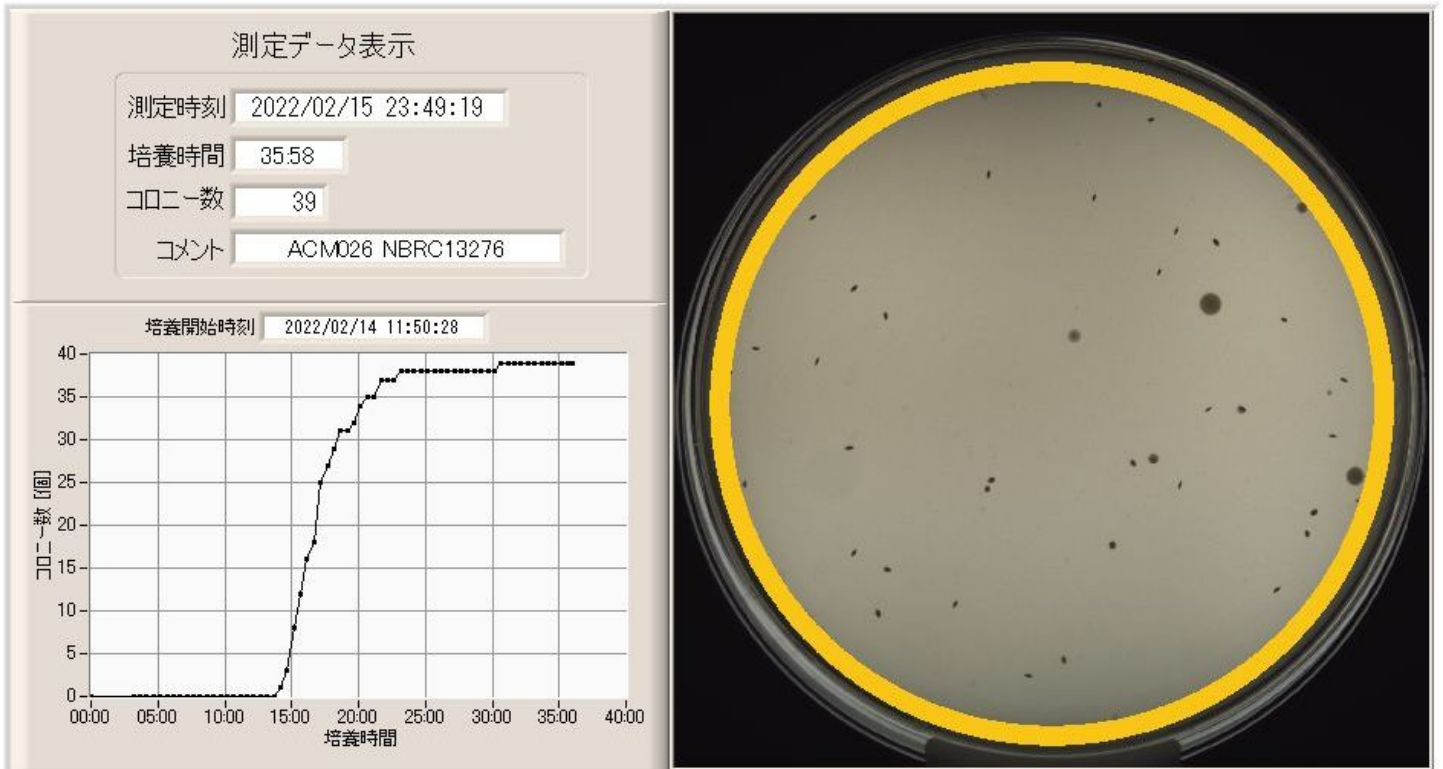


図2 . 標準菌株 *Staphylococcus aureus* NBRC 13276 の発育画像

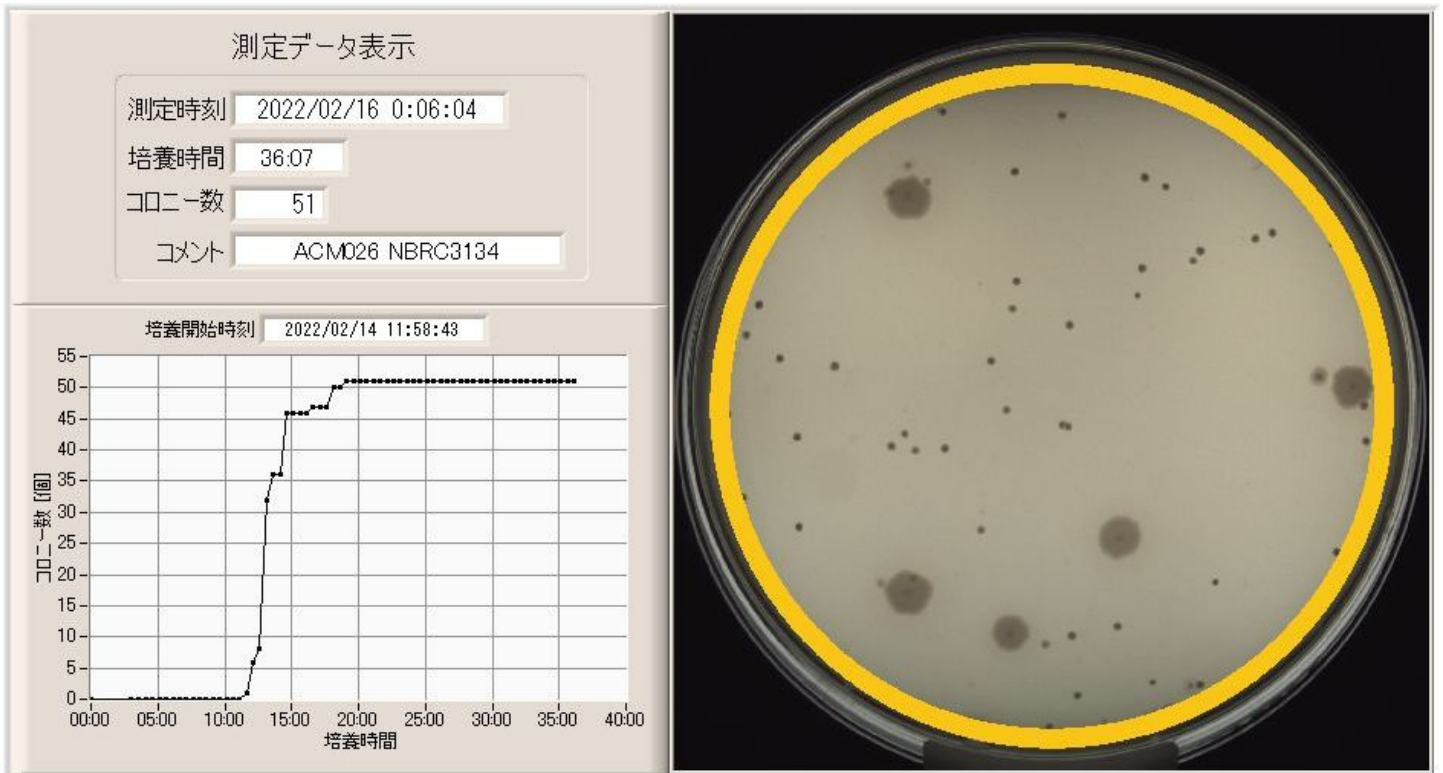


図3. 標準菌株 *Bacillus subtilis* NBRC 3134 の発育画像

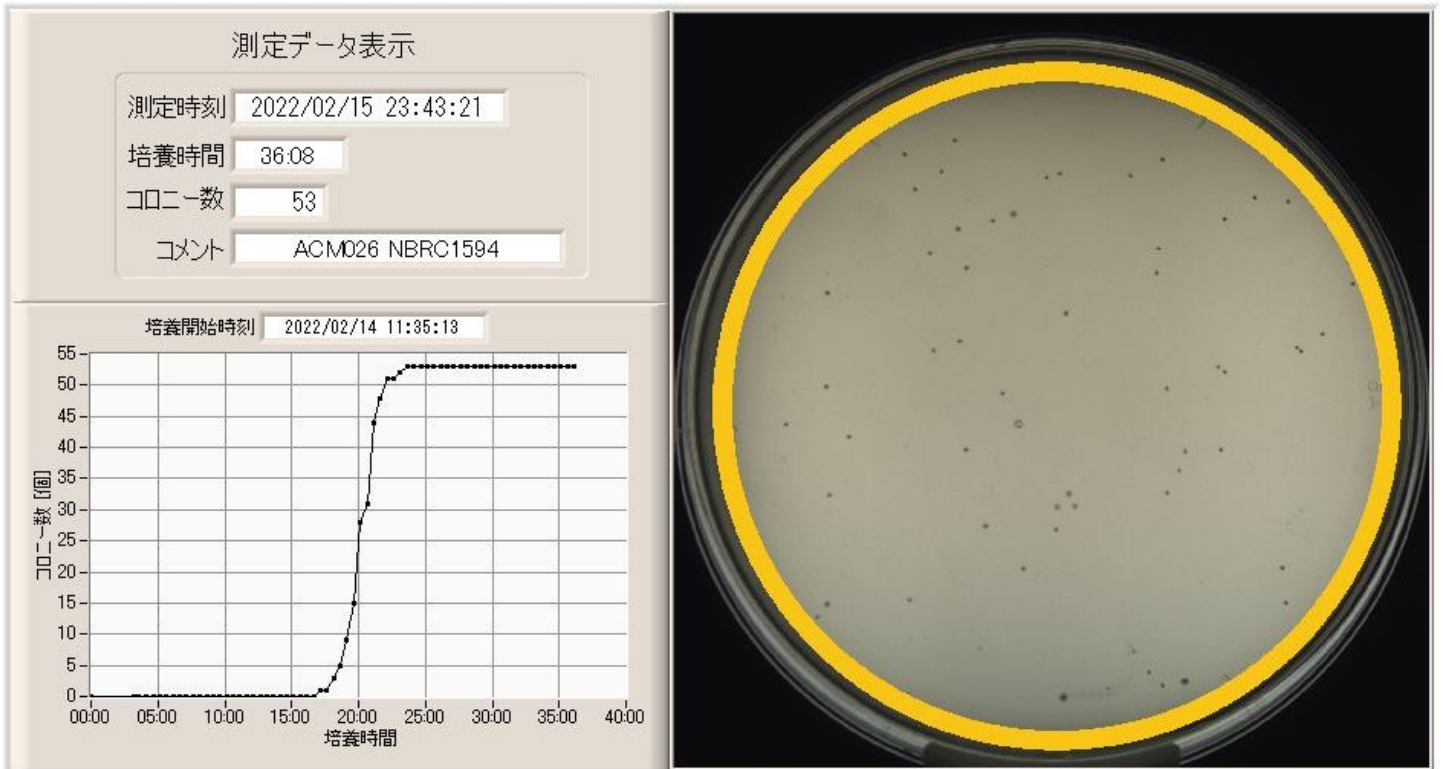


図4. 標準菌株 *Candida albicans* NBRC 1594 の発育画像



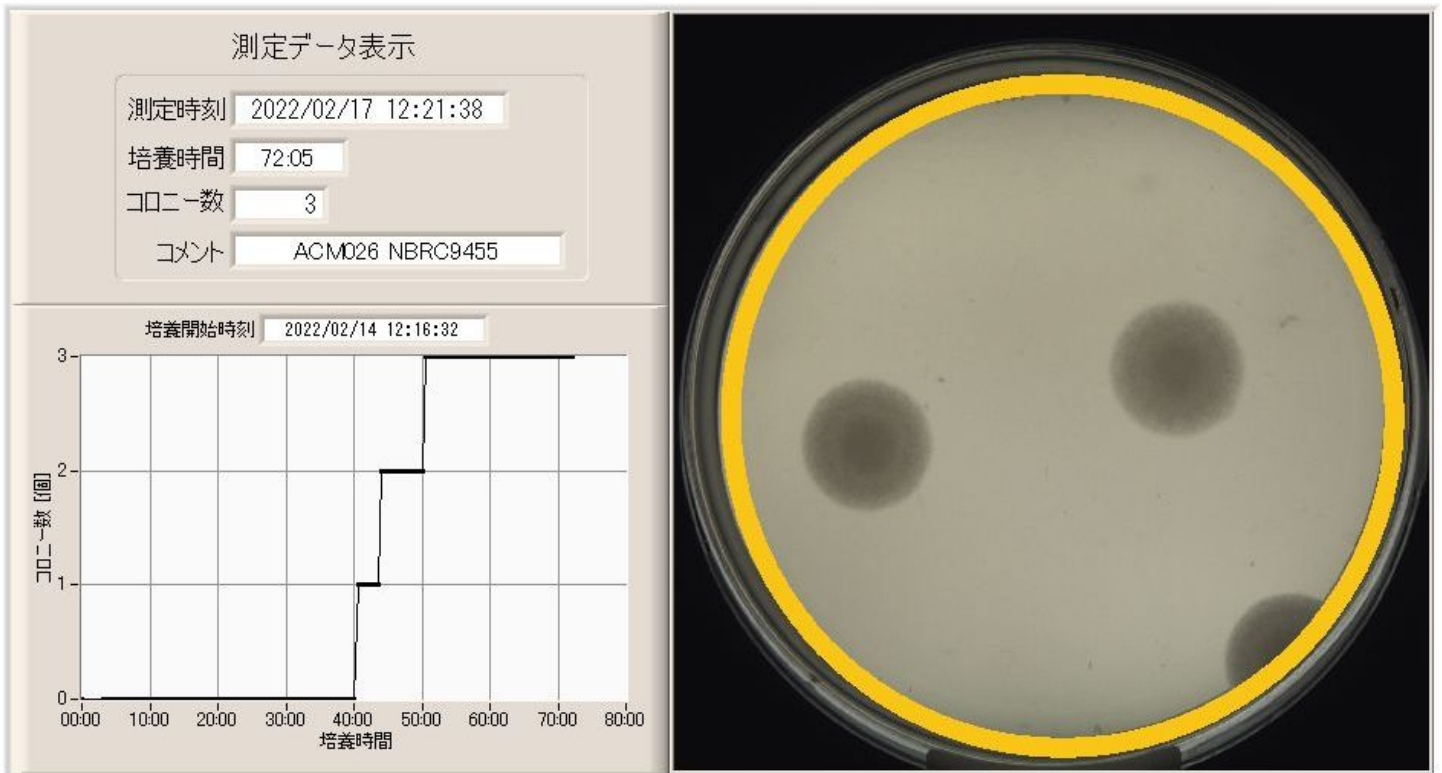


図5. 標準菌株 *Aspergillus brasiliensis* NBRC 9455 の発育画像